

A病院で出産した外国人産婦のニーズ

キーワード：外国人産婦 ニーズ 産後ケア

中川 幸 (5階東病棟)

I. はじめに

A病院の分娩件数は平成28年度で755件、そのうち外国人産婦の分娩は66件である。外国人産婦と関わる中で、言葉が通じないためにうまくコミュニケーションがとれないことや文化の違い等から、外国人産婦が何を求めているのか理解出来ず、もどかしさを感じることもある。当院では、産後早期から母児同室を開始し、授乳や沐浴などの育児指導を行っている。日本では、退院後に母親が困らないよう入院中からそれらの育児指導を行なっているが、果たして外国人産婦にとって本当に必要なものなのだろうか。海外でも日本と同じように産前・産後に指導を受けているのだろうかと疑問を持つことがある。また、各国の文化の違いや言葉が通じないことによるコミュニケーション不足が生じ、外国人産婦のニーズを把握することが難しいため、どのような援助を必要としているのか把握できていない現状にある。

日本で出産する外国人産婦のニーズを把握することは重要であるが、本当は何を求め、必要としているのか実際に外国人産婦の思いを聞き、ニーズを明らかにした文献は少ない。そこで、本研究では当院で出産を経験した外国人産婦に助産師による産前・産後の関わりについてインタビューを行い、私たちスタッフに何を望んでいるのかニーズを明らかにすることで、今後、外国人産婦に対して必要なアプローチ方法を見出し、より良い産後ケアを提供していくことを目的とする。

II. 用語の定義

外国人産婦：日本人以外の産婦（国籍は問わない）

III. 倫理的配慮

対象者に研究の意義、目的、方法、個人のプライバシーの保護に関する配慮について説明し、研究協力への同意が得られた産婦のみに行う。また研究の参加は任意であり、辞退しても不利益が生じないこと、いつでも研究の参加を中止できることを伝える。

IV. 研究方法

1. 研究デザイン
質的研究

2. 研究期間
平成29年9月～11月

3. 対象者

A病院で出産した外国人産婦（日本語でコミュニケーションが図れる者）

4. データ収集方法

産後3～4日目（退院前日）にプライバシーを確保できる個室でインタビューガイド（①国籍、在日数、年数②自国での一般的な分娩③日本で分娩した理由④産後良かったことや困ったこと、要望⑤指導について⑥サポート状況⑦不安や気がかりなこと）に沿って約30分間の半構成的面接を行う。

5. 分析方法

面接における語りから逐語録を作成し、スタッフに対するニーズに着目してコード化する。また、対象者各々のコードにおいて類似性を考察し、まとまりを作ったものをサブカテゴリーとする。

V. 結果

1. 対象の概要

・A氏：20歳代、初産婦、ベトナム人、来日5年目、物流センターに就職、38週、促進分娩

・B氏：20歳代、初産婦、ベトナム人、来日3年目、学生、40週、自然分娩

日本とベトナムの文化の違いは表1に示す。

2. 対象の反応

面接で得られたデータを基に逐語化を行い、スタッフに対するニーズに着目してコードとサブカテゴリーを抽出した。以下コードを「」サブカテゴリーを〈〉で示す。詳細は表2に示す。

「ベトナムは待ってくれないからすぐ手術にするって聞いた。お母さんがいるから帰ろうかなって思ってたけど、日本で赤ちゃん産みたいと思った。日本は待ってくれたし、一緒に頑張ってくれるから嬉しかった。それに日本は安全だよな。」「日本は安全でしょ？だから安心。友

達も良いつて言ってたから最初から日本で産みたいと思ってたよ。」という発言から〈日本の安全な医療〉というサブカテゴリーを抽出した。「難しい日本語もあってわからないこともあったよ。私は日本語が少しわかるからよかったけど、わからない人は大変だと思う。病院に来るのはドキドキしてるから、通じないと大変だと思うよ。」「マザークラスを旦那さんと受けたけど、とても良かった。周りは日本人しかいなかったけど話しかけてくれてみんな優しくかった。人形で抱っこしたり服変えたりして楽しかった。ただ、家に帰ったら忘れちゃった。プリント見ても日本語だからわかるとことわかんないことあった。ふりがながあればわかっただかもね。」「難しい日本語もあってわからないこともあったよ。」という発言から〈外国人産婦向けの媒体〉〈ゆっくり関わる時間〉というサブカテゴリーを抽出した。「ベトナムは多分先生からこんなに教えてもらうこと（指導）はないんじゃない？だからいっぱい勉強できてよかったよ。でもいっぱい疲れたね。赤ちゃんが泣くから夜眠れないし、昼は勉強があったからね。」「おっばいのこととか色々教えてくれてよかったけど、毎日イベントがあって疲れてる時はきつかったかな。」という発言から〈知識の獲得〉〈睡眠不足に対する休息の確保〉というサブカテゴリーを抽出した。「旦那さんと妹と一緒に住んでる。近くに友達が住んでるよ。その人は旦那さんが日本人。あと、少し友達がいるけどあんまり近くないかな。集まったりするところはないと思う、知らないけど。あつたら友達できるから良いかもしれないね。」「ベトナムの友達がいる。連絡先知ってるくらいだけど。その人も赤ちゃん産んでるから教えてもらおうと思ってる。友達は欲しいと思ってるけど難しいよね。」という発言から〈外国人産婦を支えるコミュニティ〉というサブカテゴリーを抽出した。

VI. 考察

藤原らは、本来喜ばしい出来事である出産は、外国人女性にとってコミュニケーションの不成功や異文化な環境への戸惑いから、孤独感・疎外感の強い体験となっていた¹⁾としている。しかし、本研究において〈日本の安全な医療〉というサブカテゴリーで、A氏、B氏共に母国でなく日本での安全な出産を望んでいたことが分かった。一方で、〈睡眠不足に対する休息の確保〉というサブカテゴリーで、知識を得たい思いがあることと同時に、休息を望んでいる

ことが分かった。藤原らは、疲労は日本人の妊産婦であっても、産褥期のストレスは強く、外国人女性は、異文化での生活というストレスを抱え、さらに出産・育児という負担が精神症状を呈してしまう危険性を持っている¹⁾と述べている。産後の睡眠不足による疲労はストレスにつながる。外国人産婦は休息を求めており、これは日本人産婦にも共通して言えることである。外国人産婦は〈知識の獲得〉というサブカテゴリーで、産前～産後を通してより深い知識の獲得を望んでいることが分かった。現在A病院で行っているマザークラスは参加者約20人に対してスタッフ1人である。外国人産婦も理解できるようなものにしていくためには、より時間をかけてゆっくりと関わりが持てるよう、スタッフの増員や使用する外国人用のパンフレットの作成など内容の見直し、理解を深められるよう外来の保健指導時に通訳を導入するなどの対策が必要である。また、知識を得たいという思いがあるのと同時に、休息も望んでいるため、産婦の身体的・精神的側面からケアしていくことが大切である。

〈外国人産婦向けの媒体〉〈ゆっくり関わる時間〉というサブカテゴリーから、日常的にコミュニケーションの困難な場面があったと考えられる。杉本らが、医療者は外国人女性が日本語を話すことで全てを理解していると思い込み、相手の状況を考慮しないコミュニケーションを遂行している²⁾と述べているように、日本語を話せる外国人に対して相手が理解していると思い、きちんと理解を確認出来ていなかったかもしれない。外国人産婦は、「言いたいことが伝わらないこともあった。アイフォンで調べたりしたよ。」と述べているように、自身でコミュニケーション不足を解消しようとする姿勢が見られた。現在、A病院では退院指導パンフレットや授乳表の英語表記のものを作成しており、外国人産婦に対してはそれらを利用している。また、タブレットも支給されたため、日常会話でも使用する場面が増えてきた。今後はさらにそれらを活用し、時間的余裕をもって外国人産婦と理解を確認しながらゆっくりと関わっていくことが必要である。

〈外国人産婦を支えるコミュニティ〉というサブカテゴリーから、コミュニティや友人など、外国人との関わりを望んでいることが分かった。橋本らは、異国での生活で知人が少なく頼れる人が少ないこと、言葉が通じないことや保険医療システムを知らないことなどによってこれらの問題やストレスが日本人以上に増強

される危険性がある³⁾と述べている。今回の対象者は、母親が来日したり、友人のサポートを得るといった何らかのサポートを受けることが出来ているが、サポートが受けられずに退院してしまう外国人産婦もいる。そのため、どのような支援が必要なのかを的確にアセスメントし、MSW や地域、病院内のみならず行政など他職種と連携を図りサポートしていく必要がある。

Ⅶ. 結論

1. 母国でなく日本で出産する外国人産婦は、①日本の安全な医療②外国人産婦向けの媒体③ゆっくり関わる時間④知識の獲得⑤睡眠不足に対する休息の確保⑥外国人産婦を支えるコミュニティという6つのニーズがあることがわかった。

2. 外国人産婦のニーズを満たすための必要なアプローチとしては、外国人産婦は産前～産後を通してより深い知識の獲得を望んでいるため、マザークラスの内容の見直しやパンフレットの充実、翻訳タブレットを活用し、時間的余裕を持って関わることと、休息を必要としている場合もあるため、身体的・精神的側面からアセスメントを行い、休息の時間を確保すること、退院後の生活を見据え、どのような支援が必要なのかを的確にアセスメントし、入院中から他職種との連携を図ることが必要である。

Ⅷ. 研究の限界

本研究は対象者が2名であったこと、ベトナム人女性のみであること、日本語がある程度理解でき、比較的コミュニケーションが図りやすいことから今回の結果を一般化することは難しく、研究の限界がある。今後は、対象者を増やすとともに、量的研究をすすめて一般化を図ることで、外国人産婦のニーズを詳細に把握してケアを充実させていく必要がある。

Ⅸ. 謝辞

本研究を行うにあたり、本研究の内容をご理解いただき、快くご協力していただいた皆様に深く感謝申し上げます。

Ⅹ. 参考文献・引用文献

- 1) 藤原ゆかり：在日外国人女性の出産—孤独感や疎外感を抱く体験—、ヒューマン・ケア研究、第8号 38-50頁、2007
- 2) 杉本なおみ：医療者のためのコミュニケーション入門、精神看護出版、2005

3) 橋本秀実：在日外国人女性の日本での妊娠・出産・育児の困難さとそれを乗り越える方略、Journal of International Health Vol.26 No.4、2011

4) <http://www.rasc.jp/cms/wp-content/uploads/vietnam.pdf>

表1. 日本とベトナムの文化の違い（対象者からの情報も含む） 参考文献4）

<ul style="list-style-type: none"> ・無痛分娩や帝王切開が主流 ・公的支援は十分ではなく、家族や親族、近隣の人々によって補っている、専門家の意見よりも母親の経験値を優先させる（家族や親族、近隣者からの安心・安全は継代的に深く心身に浸透し、ライフサイクルを支えるものとされているため） ・入院期間は基本1日（希望があれば数日延ばせる） ・母乳抑制の作用があるため産後にキャベツは摂取しない（食文化の違い） ・患者数が多いため同部屋。裕福であれば1人だが、ほとんどは1つのベッドに2人とかで寝る。廊下にベッドの場合もある ・分娩予約制度がない、母子手帳も馴染みがない、問題がなければ分娩までの定期健診にも行かない人もいる ・妊娠後はできるだけ沢山食べて太った方がいい、母体が太ければ胎児は元気で大きく育っていると信じられている ・母乳栄養に関しての対処は民間療法に頼るところが多く、専門的な援助をする機関は充実していない ・産後半年位で子供を預けて職場復帰することが多い

表2. 面接で得られた外国人産婦のニーズ

サブカテゴリー	コード
日本の安全な医療	<p>A: 「ベトナムは待ってくれないからすぐ手術にするって聞いた。お母さんがいるから帰ろうかなって思ってたけど、日本で赤ちゃん産みたいと思った。日本は待ってくれたし、一緒に頑張ってくれるから嬉しかった。それに日本は安全だね。」</p> <p>B: 「日本は安全でしょ？だから安心。みんな優しいしね。友達も良いつて言ってたから最初から日本で産みたいと思ってたよ。」</p>
外国人産婦向けの媒体 ゆっくり関わる時間	<p>A: 「難しい日本語もあってわからないこともあったよ。私は日本語が少しわかるからよかったけど、わからない人は大変だと思う。病院に来るのはドキドキしてるから、通じないと大変だと思うよ。通訳してくれる人がいると良いかもと思ったこともあるよ。でも自分で携帯で調べたりしたかな。英語で書いてくれたプリントはすごく助かった。」</p> <p>A: 「マザークラスを旦那さんと受けたけど、とても良かった。周りは日本人しかいなかったけど話しかけてくれてみんな優しくかった。人形で抱っこしたり服変えたりして楽しかった。ただ、家に帰ったら忘れちゃった。プリント見ても日本語だけだからわかることわかんないとことあった。ふりがながあればよかったかもね。」</p> <p>B: 「いろいろ教えてくれて嬉しかった。でも難しいこともあった。言いたいことが伝わらないこともあったけどね。iPhoneで調べたりしたよ。先生たちも忙しいから話かけにくい時もあった。もっとゆっくり時間があればよかったね。」</p>
知識の獲得 睡眠不足に対する休息の確保	<p>A: 「ベトナムは多分先生からこんなに教えてもらうこと（指導）はないんじゃない？だからいっぱい勉強できてよかったよ。でもいっぱい疲れたね。赤ちゃんが泣くから夜眠れないし、昼は勉強があったからね。」</p> <p>B: 「おっばいのこととか色々教えてくれてよかったけど、毎日イベントがあつて疲れてる時はきつかったかな。休みたい時もあったよ。でもしないとイケないからやった。」</p>
外国人産婦を支えるコミュニティ	<p>A: 「旦那さんと妹と一緒に住んでる。近くに友達が住んでるよ。その人は旦那さんが日本人。あと少し友達がいてあんまり近くないかな。集まったりするところはないと思う、知らないけど。あつたら友達できるから良いかもしれないね。」</p> <p>B: 「ベトナムの友達がいる。連絡先知ってるくらいだけど。その人も赤ちゃん産んでるから教えてもらおうと思ってる。友達は欲しいと思ってるけど難しいよね。」</p>